

卒業に向けて ～心の金メダル～

校長 高橋 馨

冬季五輪(ミラノ・コルティナ2026)において、日本は120名の選手が出場し、冬季五輪史上最多となる24個のメダルを獲得しました。競技後の選手の言葉や表情からは、オリンピックという大舞台で競技できたことが、今後の人生にとってかけがえのない経験となったことが伝わってきました。

同じく世界的なスポーツイベントであるWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)。その予選の観戦プログラムに硬式野球部が招待され、開催セレモニーにも参加する予定です。世界大会の舞台である東京ドームのグラウンドに立ったとき、生徒たちがどのような思いを抱くのか、大変楽しみです。また、すでに終了した特別支援学校文化連盟の演劇祭や造形美術展等にも通じることですが、こうした取り組みに生徒が参加することは、特別支援学校への理解を広げる大切な機会となります。だからこそ、社会に出る直前の3年間を担う高等部の学校として、生徒たちの姿や学びの成果を広く社会に知っていただくことは、重要な役割と考えています。今後もこのような機会を積極的に活用してまいりますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

いよいよ3月を迎え、卒業生一人一人にとっての大舞台である卒業式が近づいてまいりました。今年度は職能開発科の一期生を加え、三軒茶屋校舎および分教室合わせて57名の生徒が青鳥から旅立ちます。これまで積み重ねてきた努力を胸に、自信という“心の金メダル”を携え、新たな道へ力強く歩み出す日となるよう、準備を進めております。この一年間、本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。卒業、そして進級に向けて、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

ポッチャ交流会



3日間にわたり、ポッチャ交流会を行いました。講師として、東京2020パラリンピック日本代表監督の村上光輝さんや、世田谷区スポーツ振興財団の先生方を迎え、下馬二丁目の町会の皆さんにも参加していただきました。

ゲームを行う中で、どの学年の生徒も、やり方を教え合ったり、「がんばれ！」と声をかけ合ったりと、仲間との関わりが多く見られました。また、地域の方々と生徒が同じグループで活動する中で、自然と力を合わせて取り組む様子が見られ、大変頼もしく感じました。投球順を決める際には、「どうぞ」と相手に譲るなど、思いやりある行動も随所に見られました。

ゲームの中で、チームで相談したり、相手に道具を渡してあげたりと、優しさや協力する姿がたくさん見られました。今回の交流会を通して、スポーツの楽しさだけでなく、人とつながる喜びを感じられる時間になりました。



八丈分教室

沖縄修学旅行



2年生は1月28日から2月1日まで、4泊5日で沖縄に行ってきました。行きは飛行機、帰りは船という負担の大きい長距離移動ですが、島育ちの生徒たちは、すっかり慣れていました。今年度からは八丈高校と全行程をともにして、移動や宿泊先、体験活動などを通して交流を深めることができました。同じ島でも八丈とは海の色が違うこと、シーサーに雄雌があること、沖縄特有のアイスのフレーバーがあること。生徒たちはそれぞれに、沖縄の自然や文化、歴史に触れ、様々な発見と驚きを得られました。

また、分教室では初めてガマ(豪)で戦争の追体験を行いました。真っ暗で息苦しいガマの中で、戦争の悲惨さと過酷さ、生への希望など、当時の痕跡をたどりながら、生々しい戦争の記憶を肌で感じました。

旅は人を育てると言います。生徒たちは沖縄から帰ってきて、いつもの八丈の海や街がすこし違って見えているかもしれませんね。

